

**Citation:** Wu B, Liu M, Zhang S. Dan Shen agents for acute ischaemic stroke. *Cochrane Database of Systematic Reviews* 2007, Issue 2. Art. No.: CD004295. DOI: 10.1002/14651858.CD004295.pub3.

**CRG名:** Stroke

## [最新版\(英語版\)はこちら](#)

**英語版最終改訂年月:** 12 January 2007

**Clib issue No.;** N/U: 2007 issue 2; Update review

**背景:** 脳微小循環の改善を示唆している主に実験データに基づくと、薬草療法であるタンジン薬は中国において急性虚血性脳卒中の治療に広く用いられている。

**目的:** タンジン薬が急性虚血性脳卒中に及ぼす影響を評価する。

**検索戦略:** Cochrane Stroke Group Trials Register(最終検索日2006年7月)、Cochrane Complementary Fieldのregister(最終検索日2006年7月)およびChinese Stroke Trials Register(最終検索日2006年8月)を検索した。さらに、次の書誌データベースを検索した。Cochrane Central Register of Controlled Trials(CENTRAL)(コクラン・ライブラリ2006年第2号)、MEDLINE(1996年~2006年8月まで)、EMBASE(1980年~2006年8月まで)、CINAHL(1982年~2006年8月まで)、AMED(1985年~2006年8月まで)およびChina Biological Medicine Database(CBM-disc)(1979年~2006年8月まで)。中国の雑誌10誌をハンドサーチし、臨床試験および研究データベースを検索し、参考文献リストを詳細に調べ、タンジンを製造している製薬会社に問い合わせた。また、さらに詳細なデータを入手するために試験著者との連絡も試みた。

**選択基準:** 急性虚血性発作患者において、タンジン薬をプラセボまたは非盲検対照と比較したランダム化または準ランダム化比較試験。

**データ収集と分析:** 2名のレビューアが対象とする試験を独立して選択し、試験の質を評価し、データを抽出した。

**主な結果:** 患者494例を含む6件の試験があった。3件の試験は評価待ちであった。少なくとも3カ月の追跡終了時の死亡患者数および要介護患者数はこの6件の試験において報告されていなかった。有害事象を報告していたのは2件のみだった。全試験においてアウトカム「治療終了時における神経障害の有意な改善」が評価されていた。タンジン薬はアウトカムを有する患者数を有意に増加させた(Peto法によるオッズ比3.02、95%信頼区間1.73~5.26)。治療開始2週間以内または全追跡期間中に死亡例の報告はなかった。試験には、生活の質に関する評価は全く含まれていなかった。

**レビューアの結論:** 選択した研究はすべて方法論の質が不良であり、現在のデータからは信頼性のある結論を導き出すことはできなかった。さらに質の高いランダム化比較試験を実施すべきである。

翻訳公開日: 07年7月18日

ご注意: この日本語訳は、臨床医、疫学研究者などによる翻訳のチェックを受けて公開していますが、訳語の間違いなどお気づきの点がございましたら、Minds事務局までご連絡ください。なお、コクラン・ライブラリは年4回改定版が発行されます。Mindsでは最新版の日本語訳を掲載するよう努めておりますが、編集作業に伴うタイム・ラグが生じている場合もあります。ご利用に際しては、最新版(英語版)の内容をご確認ください。